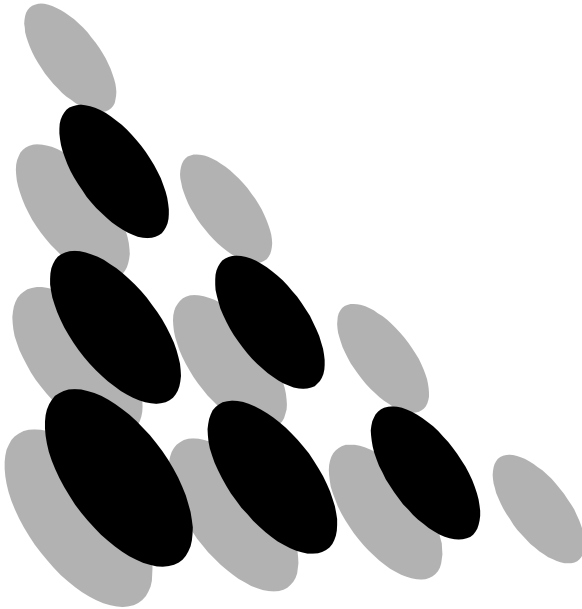


PRIMERGY

外付け LTO 装置
(PGSLT101)

取扱説明書



安全な使用のために

このマニュアルには、本製品を安全に使用していただくための重要な情報が記載されています。本製品を使用する前に、このマニュアルを熟読してください。特に、このマニュアルに記載されている「安全上の注意事項」をよく読み、理解された上で本製品を使用してください。また、このマニュアルは、本製品の使用中、いつでも参照できるように大切に保管してください。

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

当社のドキュメントには「外国為替および外国貿易管理法」に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

高調波ガイドライン適合品

DLTは、クアナム・コーポレーションの商標です。

Liner Tape-Open, LTO, LTO Logo, Ultrium および Ultrium Logo は、HP、IBM、および Seagate の米国における商標です。

ARCserve, ARCserveIT, ARCserve2000 は、米国 Computer Associates International Inc. 社の商標です。

Microsoft, Windows, WindowsNT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

会社名および製品名は各社の商標または登録商標です。

はじめに

このたびは、PRIMERGY（プライマジー）用外付けLTO装置（PGSLT101）をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本書は、外付けLTO装置（以下、本製品）の取り扱いの基本的なことからについて説明しています。お使いになる前に本書をよくお読みになり、正しい取扱いをされますようお願いいたします。

警告表示について

このマニュアルでは、使用者や周囲の方の身体や財産に損害を与えないために以下の警告表示をしています。



警告

「警告」とは、正しく使用しない場合、死亡する、または重症を負うことがあり得ることを示しています。



注意

「注意」とは、正しく使用しない場合、軽傷、または中程度の傷害を負うことがあり得ることと、当該製品自身またはその他の使用者などの財産に、損害が生じる危険性があることを示しています。

重要

警告レベルとは別に特筆すべきものを「重要」とする。

感電



で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容（左図の場合は感電注意）が示されています。

分解



で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が示されています。

プラグ



で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が示されています。



警告

感電



必ず電源を接続する前にアース接続をしてください。
アース接続ができない場合は、弊社担当保守員にご相談ください。
アース接続をしないで使用すると、万一漏電した場合に、感電・火災の原因となります。

窒息



梱包に使用しているビニール袋はお子様が口に入れたり、かぶって遊んだりしないよう、ご注意ください。窒息の原因となります。

感電



万一、装置から発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生した場合は、ただちに装置本体の電源スイッチを切り、その後必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
煙が消えるのを確認して、弊社担当保守員に修理をご依頼ください。
お客様自身による修理は危険ですから絶対におやめください。
異常状態のまま使用すると、感電・火災の原因となります。

感電



異物（水・金属片・液体など）が装置の内部に入った場合は、ただちに装置本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
その後、弊社担当保守員にご連絡ください。
そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。

感電



装置を落としたり、カバーなどを破損した場合は、装置本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
その後、弊社担当保守員にご連絡ください。
そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。

感電



装置の上または近くに「花瓶・植木鉢・コップ」などの水が入った容器、金属物を置かないでください。
感電・火災の原因となります。

感電



台所など湿気・ほこり・油煙の多い場所、通気性の悪い場所、火気のある場所に置かないでください。
故障・感電・火災の原因となります。

感電



風呂場、シャワー室などの水場で使用しないでください。
感電・火災の原因となります。

感電



表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。
また、タコ足配線をしないでください。
感電・火災の原因となります。



感電
近くで雷が起きた時は、電源コードをコンセントから抜いてください。
そのまま使用すると、雷によっては装置を破壊し、感電・火災の原因となります。



感電
付属の電源コード以外は使用しないでください。
感電・火災の原因となります。



感電
装置に水をかけたり、濡らしたりしないでください。
感電・火災の原因となります。



感電
濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となります。



感電
電源コードを傷つけたり、加工したりしないでください。
重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると
電源コードを傷め、感電・火災の原因となります。



感電
電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込み口がゆるい状態では使用し
ないでください。
そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。
修理は弊社担当保守員にご依頼ください。



発火
電源プラグの金属部分、およびその周辺にほこりが付着している場合は、乾いた布でよ
く拭いてください。
そのまま使用すると、火災の原因となります。



感電
開口部（通風孔など）から内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、
落としたりしないでください。
感電・火災の原因となります。



感電
装置本体のカバーや差し込み口についているカバーは、取り外さないでください。
内部の点検、修理は弊社担当保守員にご依頼ください。
内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。



感電
装置をお客様自身で改造しないでください。
感電・火災の原因となります。

注意

発火



装置の開口部（通風孔など）をふさがしないで下さい。
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

けが



装置の上に重いものを置かないでください。また、衝撃を与えないでください。
バランスが崩れて倒れたり、落下したりしてけがの原因となることがあります。

けが



振動の激しい場所や傾いた場所など、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

発火



直射日光の当たる場所や炎天下の車内など、高温になる場所に長時間放置しないでください。
高熱によってカバーなどが加熱・変形・溶解する原因となったり、装置内部が高温になり、火災の原因となることがあります。

感電



電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らず、必ず電源プラグを持って抜いてください。
電源コードを引っ張ると、電源コードの芯線が露出したり断線したりして、感電・火災の原因となることがあります。

発火



電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。
火災・故障の原因となります。

発火



使用中の装置は布などでおおったり、包んだりしないでください。
熱がこもり、火災の原因となることがあります。

発火



電源コードを束ねて使用しないでください。
発熱して、火災の原因となることがあります。

感電



装置を移動する場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。また、接続ケーブルなどもはずしてください。
作業は足元に十分注意して行なってください。
電源コードが傷つき、感電・火災の原因となったり、装置が落ちたり倒れたりしてけがの原因となることがあります。

感電



長時間装置を使用しないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災・故障の原因となることがあります。

梱包物を確認してください

ご使用いただく前に、以下のものが梱包されていることをお確かめください。

万一不備な点がございましたら、おそれいりますが、弊社担当営業員または弊社担当保守員までお申し付けください。

外付け L T O 装置	× 1
保証書	× 1
取扱説明書 (本書)	× 1
SCSI ケーブル	× 1
電源ケーブル	× 1
3P 2P 変換プラグ	× 1
データカートリッジ	× 1
クリーニングカートリッジ	× 1

保証書に必要な事項が書かれているかご確認ください。お買い上げ時に正しく記載されていない場合は、保証書が無効となり無償保証を受けられないことがありますので、十分にご注意ください。記載内容が不十分な場合は、速やかに弊社担当営業にお問い合わせください。なお、保証書は大切に保管しておいてください。

2001年12月

目次

はじめに	i
警告表示について	i
梱包物を確認してください	vi
目次	vii
第1章 機器の説明	1
1.1 装置概要	1
1.2 各部の名称	1
第2章 接続のしかた	3
2.1 設置場所について	3
2.2 SCSI ID の設定	3
2.3 SCSI ケーブルの接続	4
2.4 電源の接続	5
第3章 操作のしかた	7
3.1 電源の入れかた	7
3.2 データカートリッジをロードするには	7
3.3 データカートリッジをアンロードするには	8
3.4 LED 表示について	8
3.5 緊急リセットについて	9
第4章 データカートリッジの取り扱い	10
第5章 クリーニングについて	12
第6章 取り扱い上の注意	13
6.1 必須ソフトウェア	13
6.2 一般的注意事項	13

6.3 バックアップ運用時の注意事項.....	14
第7章 サプライ品	15
第8章 仕 様	16
付録 トラブルシューティング	17

第 1 章 機器の説明

1.1 装置概要

LT0(Liner Tape-Open)テクノロジーに基づいて設計されたUltrium規格のテープバックアップ装置です。テープ 1 巻に100GB (非圧縮時、圧縮機能あり) のデータを記録できます。データカートリッジへのデータ転送速度は最大15MB/s (非圧縮時) と高速です。サーバ本体とはSCSIインターフェースで接続します。

1.2 各部の名称

本製品の各部の名称を、図1.1 および図1.2 に示します。

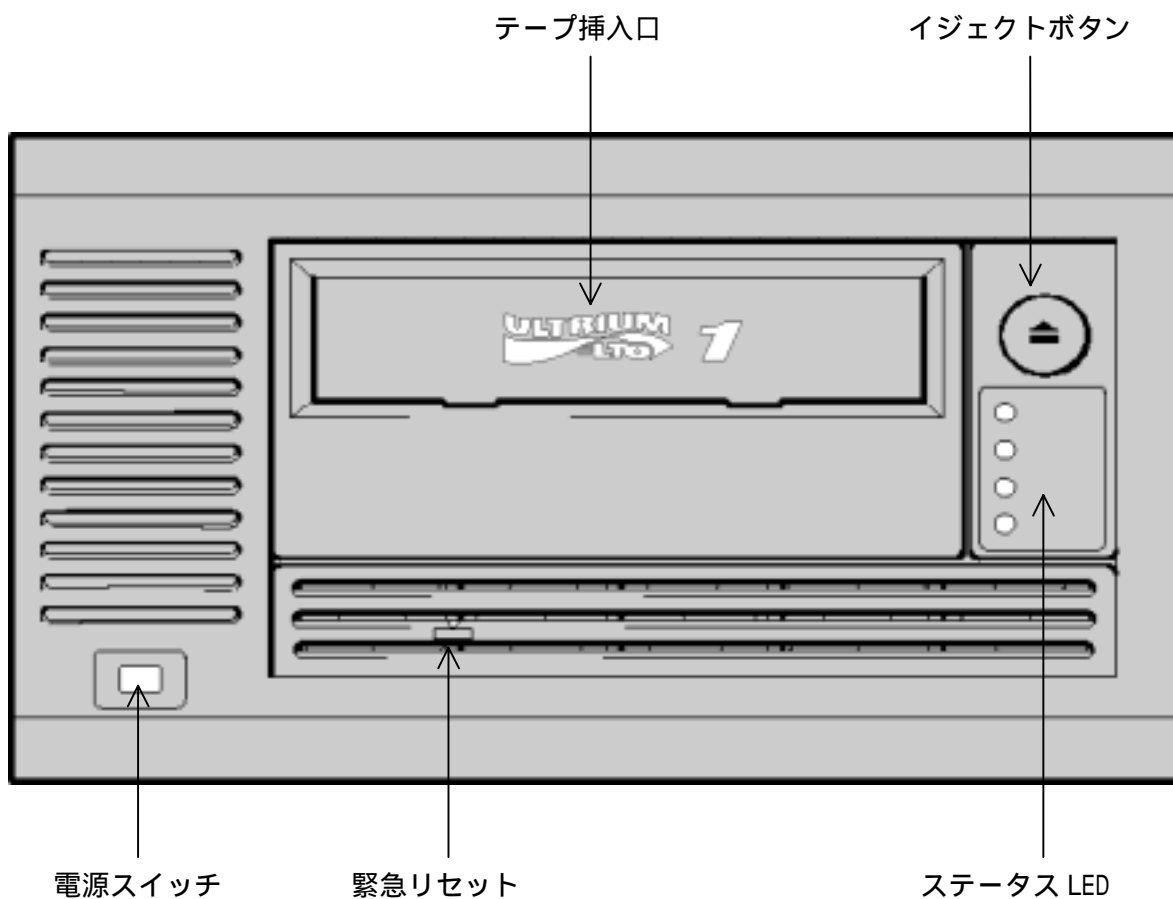


図 1.1 正面図

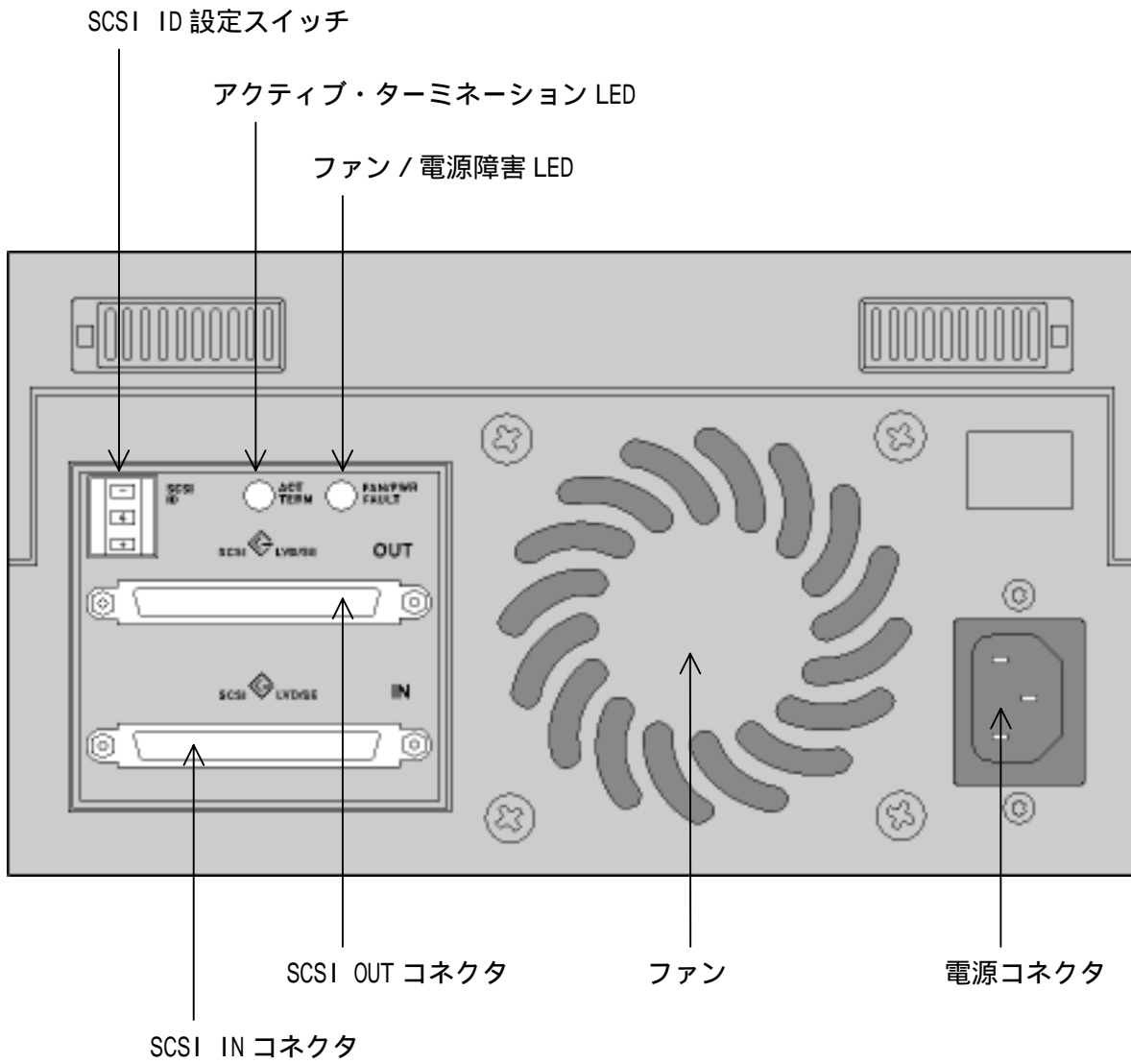


図 1.2 背面図

第2章 接続のしかた

2.1 設置場所について

次の条件を満たす場所に設置してください。

本製品の背面にある通風孔をふさがない場所へ設置してください。正しい通気ができなくなります。

周囲環境条件（装置仕様）以外での運用は、故障、エラー発生などの原因となることがありますので、必ず周囲環境条件を守ってください。

必ずゴム足を下にして設置してください。

2.2 SCSI ID の設定

本製品をサーバに接続する場合は、本製品の背面についているSCSI ID設定スイッチでSCSI IDを割り当てる必要があります。

設定変更はサーバおよび装置の電源を切った状態で行なってください。

SCSI IDはSCSIカードおよび同一インタフェース上の他のデバイスと重ならないように設定してください。

SCSI IDを変更する場合は、次のようにします。

(1) 前面の電源スイッチ（図1.1を参照）で本製品の電源をオフにします。

(2) 他のSCSI機器で使用していないSCSI IDを選び、背面のSCSI ID設定スイッチでその番号に設定します。

重要

SCSI IDを変更する場合は、一度サーバおよび本製品の電源をオフにし、IDの変更後再度オンにしてください。

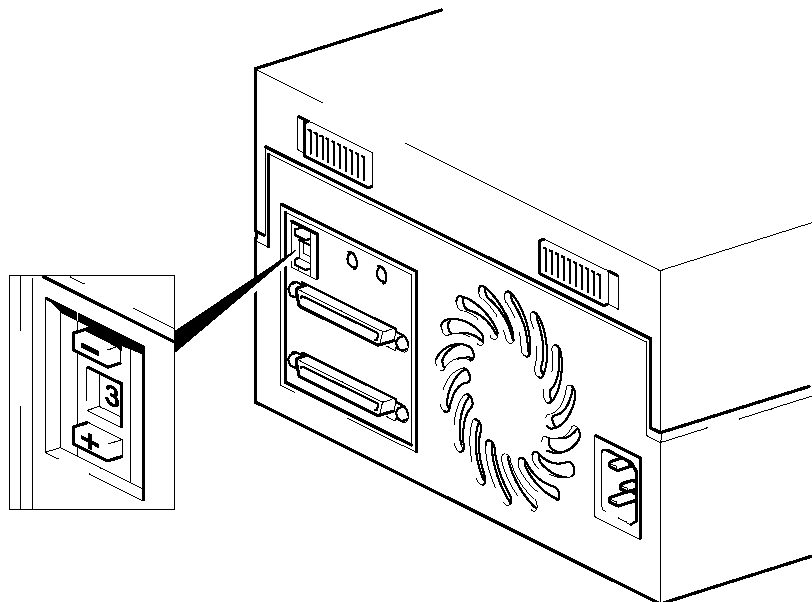


図 2.1 SCSI ID 設定スイッチ

2.3 SCSI ケーブルの接続

本製品をサーバと接続するときは、LVD対応のSCSIカードおよび添付のSCSIケーブルをお使いください。

本製品は次のようにサーバに接続します。

(1) サーバおよび本製品の電源を切ります。

重要

サーバおよび本製品の電源がオフになっていることを確認してください。電源を入れたまま SCSI ケーブルを接続すると、サーバおよび本製品の故障の原因となります。

(2) SCSIケーブルの一端をサーバに接続しネジを締めて固定します。

(3) SCSIケーブルの另一端を本製品背面のSCSI INコネクタに接続し、ネジを締めて固定します。
本製品にはオートターミネーション機能があるため、SCSI終端抵抗は不要です。

重要

サーバ側に接続したケーブルの另一端を本製品の SCSI OUT コネクタに接続しないでください。SCSI OUT コネクタに接続すると、SCSI バスが正しく終端されず正常に動作しません。必ず SCSI IN コネクタに接続してください。

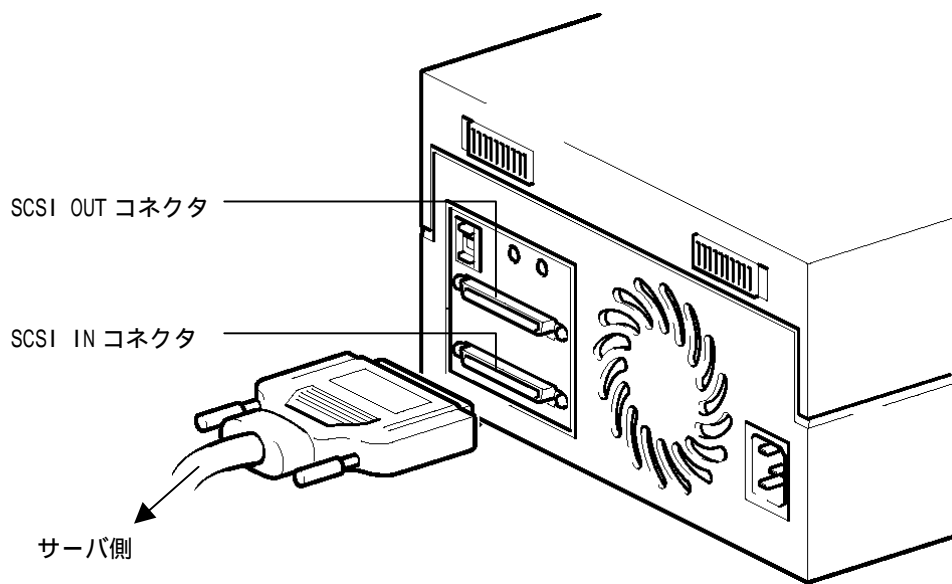


図 2.2 SCSI ケーブルの接続

(4) 2台接続時は、1台目のSCSI OUTコネクタと2台目のSCSI INコネクタを接続してください。2台目のSCSI OUTコネクタには、何も接続しないでください。

2.4 電源の接続

重要

本製品は AC 100V でお使いください。

本製品は次のように電源に接続します。

- (1) 電源ケーブルを本製品背面の電源コネクタにしっかりと差し込みます。
- (2) 電源ケーブルの另一端を電源コンセントに差し込みます。

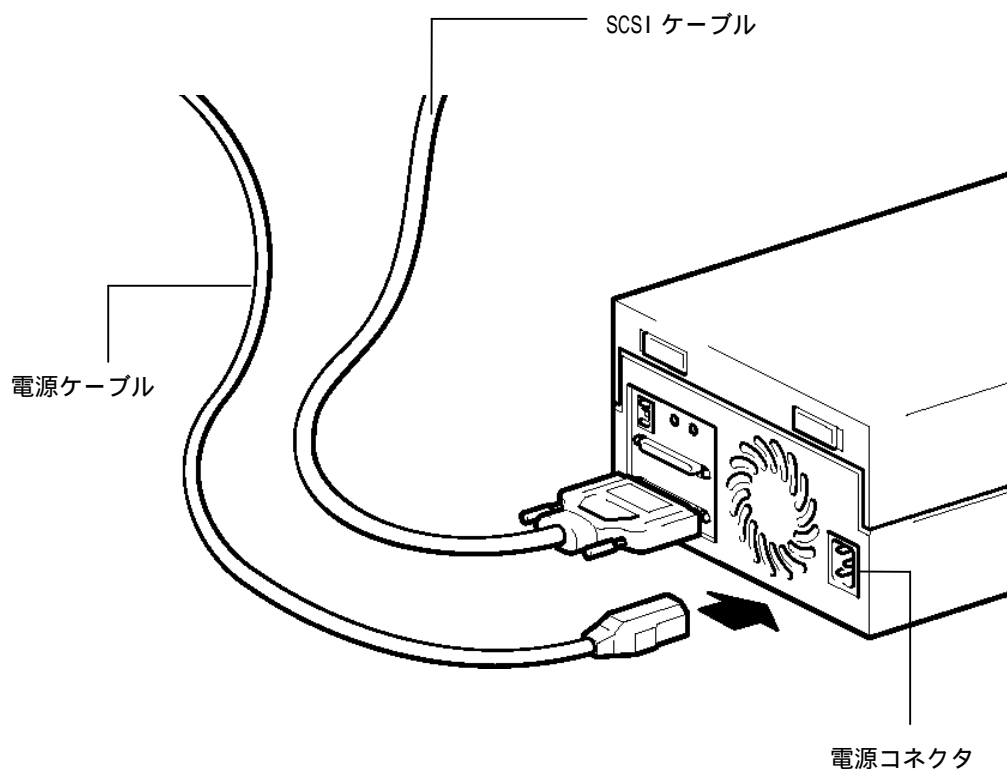


図 2.3 電源ケーブルの接続

本製品には平行3ピン（アース付き）の電源ケーブルが添付されています。3ピンのコンセントをご使用ください。

3ピンの電源コンセントがない場合は、添付の変換プラグを使って下図に示すように電源ケーブルとアース線を接続してください。

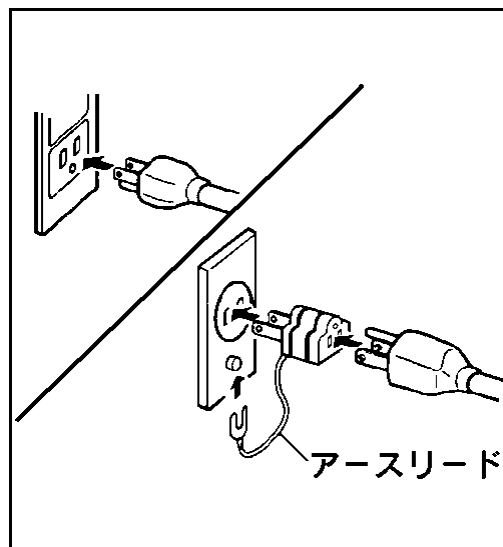


図 2.4 電源コンセントへの接続

第3章 操作のしかた

3.1 電源の入れかた

本製品前面の電源スイッチを押すと、電源が入ります。このとき電源スイッチが緑色に点灯します。電源が入ると、本製品はハードウェアのセルフテストを行ないます。

もう一度押すと電源が切れます。電源が入っていない状態ではカートリッジのロード/アンロードは行なえません。

3.2 データカートリッジをロードするには

重要

適切なメディア以外は使用しないでください。使用可能なメディアについては、第7章を参照してください。

本製品前面のカートリッジ挿入口に、矢印がある面を上にしてカートリッジを挿入します。(図3.1 参照) 本製品がカートリッジを引き込むまで、ゆっくりと押し込みます。

ドライブがロード・シーケンスを実行している間は、ステータスLEDの「Ready」が点滅します。カートリッジがロードされると「Ready」LEDは点滅から点灯に変わります。

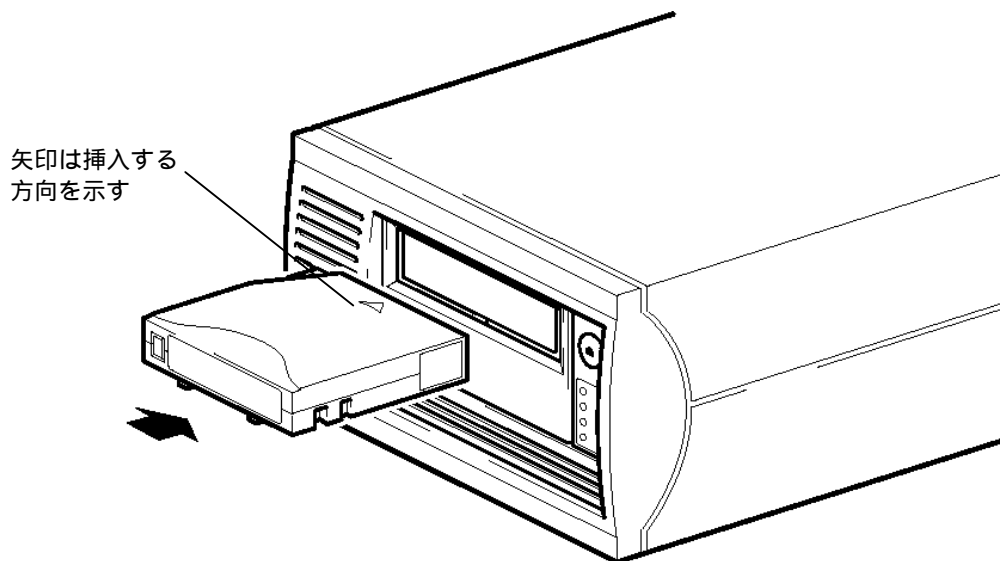


図 3.1 カートリッジのロード

3.3 データカートリッジをアンロードするには

本製品にカートリッジがロードされているとき、前面のイジェクトボタンを押すとカートリッジがアンロードされます。本製品が動作中にイジェクトボタンを押すと、実行中の動作を終了した後、テープが最初まで巻き戻されカートリッジがイジェクトされます。

強制排出

イジェクトボタンを5秒間押し続けると強制排出を行いません。媒体が取り出せなくなった場合以外、通常は本操作は行なわないでください。

重要

強制排出をした場合、データは保証されません。

3.4 LED表示について

本製品には前面に4つのステータスLED、背面に2つのLEDがあります。

(1) 前面のLED

本製品は、電源が投入されるとセルフテスト（自己診断テスト）を行ないます。その際、すべてのLEDが短時間点滅します。セルフテストが成功すると「Ready」が点滅しその後点灯したままになります。テストが失敗した場合は「Drive Error」または「Tape Error」のLEDが点滅します。

Ready（緑）

点灯の場合：ドライブは使用可能

消灯の場合：ドライブの電源がオフ、またはセルフテストで異常が検出された。

点滅している場合：ドライブは使用中

Drive Error（橙色）

消灯の場合：エラーなし

点滅している場合：ハードウェアに異常が検出された。
弊社担当保守員または営業員にご連絡ください。

Tape Error（橙色）

消灯の場合：エラーなし

点滅している場合：ドライブに現在セットされているカートリッジに問題があります。カートリッジを交換してください。

Use Cleaning Cartridge（橙色）

点灯の場合：クリーニングカートリッジを使用中

消灯の場合：クリーニング不要

点滅している場合：クリーニングが必要です。

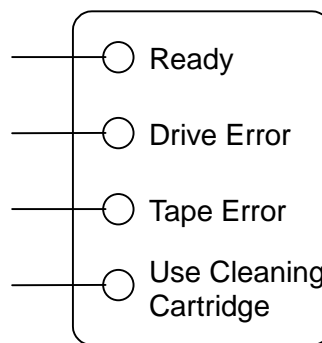


図 3.2 ステータス LED

- (2) 背面の LED
本製品背面には、2つのLEDがあります。(図3.3 参照)

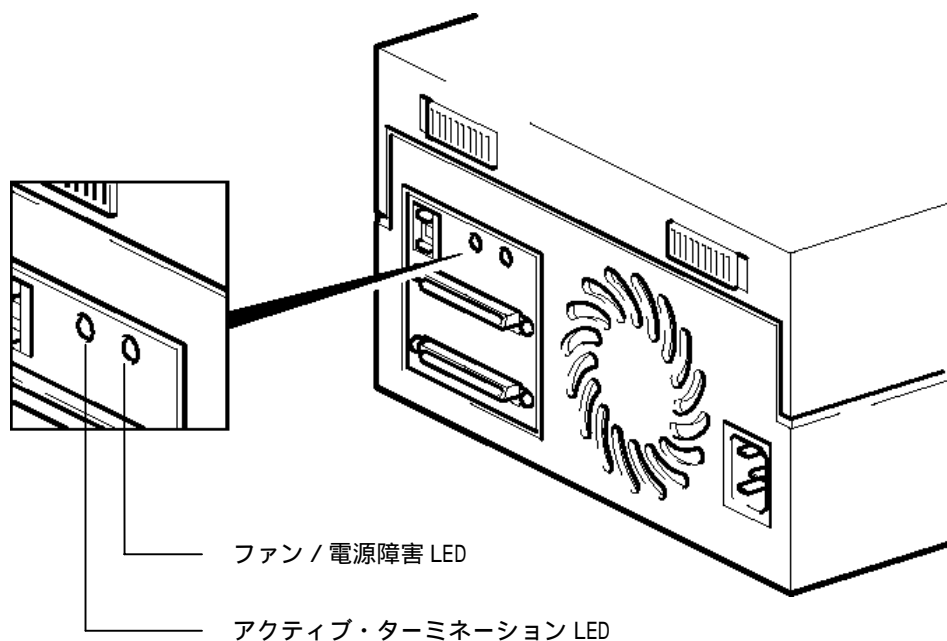


図 3.3 背面 LED

ファン/電源障害LED

オンの場合、ファンまたは電源に障害があることを示します。
弊社担当保守員または営業員にご連絡ください。

アクティブ・ターミネーションLED

オンの場合：本製品がSCSIバスの終端抵抗の役割をはたしています。
オフの場合：本製品がSCSIバスの終端抵抗になっていません。(SCSI OUTコネクタに接続されている別のデバイスまたは終端抵抗がある。)

3.5 緊急リセットについて

本製品前面には緊急リセット・スイッチがあります。クリップの先など細いもので押すとドライブが電源投入時の状態になります。

重要

緊急リセットは使わないで下さい。予期せぬリセットにより、サーバ、バックアップソフトでエラーとなることがあります。

緊急リセットを行なうと、セルフテスト(自己診断テスト)を行なうため、すべてのLEDが短時間点滅します。

第4章 データカートリッジの取り扱い

本製品には必ず下記のデータカートリッジをお使いください。

品名	商品番号	備考
Ultrium1 データカートリッジ	0160210	容量100GB

(1) 使用上の注意

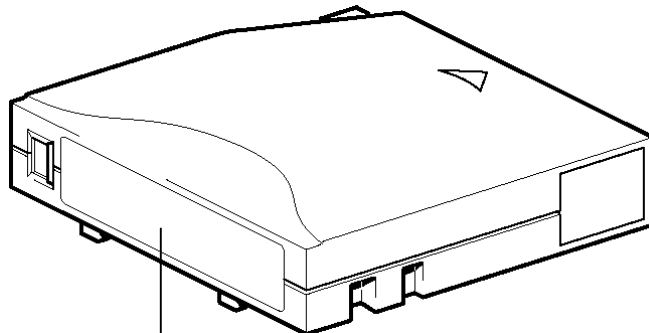
- ・結露をさけるため、急激な温湿度変化（10 / 時間、30% / 時間以上）のもとにさらさないでください。
- ・使用環境が変わった場合は、新しい環境のもとに24時間程度放置してからお使いください。
- ・ほこりが多い場所や直射日光の当たる場所、湿気のある場所には置かないでください。
- ・カートリッジに衝撃を与えないでください。
- ・カートリッジを分解しないでください。
- ・カートリッジを消磁しないでください。
- ・テープ・メディアを手で直接触らないでください。
- ・ラベルは、指定の場所以外には貼らないでください。

(2) ラベル貼り付け位置

ラベルは下図に示す位置に貼ってください。

ラベルはカートリッジに添付のラベルをご使用ください。

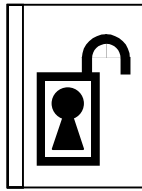
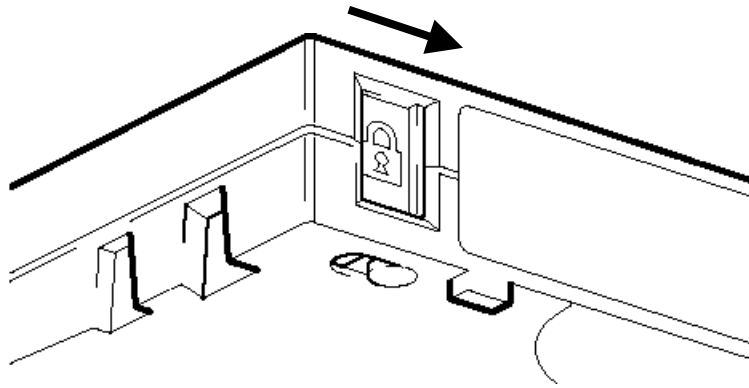
これ以外の場所にラベルを貼った場合、装置故障の原因となることがあります。



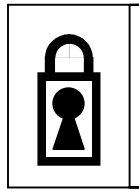
ラベル貼り付け位置

(3) 書き込み保護について

カートリッジを書き込み禁止にするには、ライトプロテクトスイッチを右にずらしてください。



書き込み可能



書き込み禁止

(4) データカートリッジの保管

データ・カートリッジを保管する場合は、プラスチックケースに入れ、保管環境の温湿度条件（16～32℃、20～80%、最大湿球温度26℃）を守って保管してください。

(5) データカートリッジの寿命について

データカートリッジは消耗品です。使用回数に限りがあります。使用回数1000回または1年を目安に新品と交換してください。なお、お使いになる環境（温度、湿度など）や使用方法、装置のクリーニング状況によってはテープの痛みが早い場合もありますので、早めの交換をお勧めします。

第5章 クリーニングについて

クリーニング周期について

磁気テープ装置では、磁気媒体から染み出る汚れや浮遊塵埃などによりヘッド汚れが発生し、これらの汚れを取り除くためにヘッドクリーニングが必要となります。装置がクリーニング要求を表示した場合はヘッドクリーニングを行なってください。また予防処置として月1回程度のクリーニングをお勧めします。

重要

本製品は、データの書き込み・読み取りに磁気ヘッドを使っています。

ヘッドがほこりやゴミで汚れていると、データの書き込み・読み取りが正常に行われません。また、データ・カートリッジの寿命が短くなる、テープ表面に傷がつき使用できなくなる等の不具合が発生します。このようなことを未然に防ぐために、クリーニング・カートリッジによる清掃を実施してください。

本製品には必ず下記のクリーニング・カートリッジをお使いください。

品名	商品番号
Ultrium 1 クリーニングカートリッジ	0160290

「Use Cleaning Cartridge」LEDが点滅している場合、クリーニングが必要です。

クリーニング・カートリッジを挿入し、クリーニングを行ってください。クリーニング・カートリッジは15回使用できます。クリーニング・カートリッジをセットしても、「Tape Error」LEDが点灯してすぐに排出されてしまう場合は、使用回数が15回を超えています。新しいクリーニング・カートリッジと交換してください。

第6章 取り扱い上の注意

6.1 必須ソフトウェア

本製品は以下のソフトウェアが必須となります。

OS	必須ソフトウェア
Windows NT4.0 Server SP6a 以上または Windows 2000 Server SP2 以上	ARCserve 2000 Advanced Edition L10 SP2 ARCserve 2000 Workgroup Edition L10 SP2

6.2 一般的注意事項



注意

本製品は精密機械ですので以下のことに注意してください。

本製品の電源を切るときは、データカートリッジを取り出してください。

装置内にデータカートリッジを入れたままにしないでください。データカートリッジの寿命が極端に短くなったり、装置が故障したりするおそれがあります。データカートリッジは、バックアップ処理の開始に先立ちセットし、バックアップ処理完了後は速やかに取り出してください。

極端な高温や低温の場所、または温度変化の激しい場所での保管は避けてください。

直射日光のあたる場所や発熱器具のそばには近づけないようにしてください。

衝撃や振動の加わる場所での使用は避けてください。

湿気やほこりの多い場所での使用は避けてください。

内部に液体や金属など異物が入った状態で使用しないでください。もし、何か異物が入ったときは、弊社担当営業員または弊社担当保守員にご相談ください。

本製品の汚れは、やわらかい布で空ぶきするか、水または薄めた中性洗剤を含ませ固く絞った布で、軽くふいてください。アルコールやベンジン、シンナーなど揮発性のものは避けてください。

寒い場所から暖かい場所に移動したり、室温を急に上げたりした直後は、内部が結露する場合がありますので、お使いにならないでください。結露したままお使いになると、本製品やデータカートリッジを損傷することがあります。大きな温度変化があったときは、最低24時間以上待ち、室温になじませてから電源をいれてください。

お使いにならないときは、本製品からデータカートリッジを取り出してください。また、データカートリッジをいれたまま本製品を持ち運ばないで下さい。

本製品を分解したり、解体したりしないでください。

6.3 バックアップ運用時の注意事項

ヘッドクリーニングの実施

磁気テープ装置では、磁気媒体から染み出る汚れや浮遊塵埃などによりヘッド汚れが発生し、これらの汚れを取り除くためにヘッドクリーニングが必要となります。装置がクリーニング要求を表示した場合はヘッドクリーニングを行ってください。また予防処置として月1回程度のクリーニングをお勧めします。

データカートリッジの寿命管理

データカートリッジは消耗品です。使用回数1000回または1年を目安に新品と交換してください。データカートリッジの寿命は装置の設置環境（温度、湿度の条件等）によって大きく変化します。ヘッドクリーニングを行ってもメディアエラーが発生するようであれば、テープが劣化している可能性がありますので、新品と交換してください。

寿命の過ぎたデータカートリッジを使用し続けるとヘッド汚れを加速するなど、装置に悪影響を与えます。データカートリッジの寿命は、装置の設置環境/動作状態/バックアップソフトウェアの種類/運用条件により大きく変化しますが、早めの交換を推奨します。

落下などによって衝撃を与えたカートリッジは絶対に使わないでください。衝撃を与えたカートリッジを使用した場合、装置故障の原因となります。

データカートリッジのローテーション運用

1巻のデータカートリッジでバックアップを繰り返すような運用では、バックアップに失敗した場合、一時的にでもバックアップデータが無くなる状態になります。バックアップ中にハードディスクが壊れたような場合には、復旧不可能な状態になります。

バックアップは数本のデータカートリッジをローテーションして運用することをお勧めします。

入れ直し運用の禁止

データカートリッジは装置内では磁気記録面が露出しており、この状態が長く続くと浮遊塵埃の影響を受けやすくなります。この状態が少なくなるようにデータカートリッジは使用前にセットし、使用後は取り出して、ケースに入れて保管してください。

バックアップ終了後のデータの検査

バックアップソフトウェアには、バックアップ終了後に“データの検査”の実行を指定できるものがあります。この指定を行うとバックアップ終了後にデータカートリッジに書き込んだデータを読み出して、書き込み内容の検査が行われますので、信頼性は高まります。

一方、バックアップ業務に要する時間が長くなったり、データカートリッジの使用回数が増えることによる寿命の低下、といった短所もありますので、留意してください。

データ圧縮率は、書き込むデータの内容によって変化します。バックアップ対象のデータが既にデータ圧縮処理されている場合などは、圧縮効果は期待できません。

データカートリッジに記録可能なデータ容量は変化することがあります。本製品はテープの劣化等によってデータの書き込みに失敗すると書き込みに失敗した場所とは別の領域に同じデータを書き直します。この処理が多発するとカートリッジに記録できる容量が減少します。

カートリッジへのラベルの貼り付けについて

カートリッジに名前等を表示する場合は、カートリッジに添付されているラベルを使用してください。

また、カートリッジにはラベルを貼る個所が決められています。装置故障の原因となりますので、決められた以外の場所にラベルをはらないようにしてください。

データの保管

データを長期に保管する場合は、カートリッジをケースに入れて、温湿度管理され、磁場の影響の少ない場所に保管してください。

本製品はDLT装置とは互換性はありません。

電源の切断について

本装置は、媒体が取り出される時にカートリッジに管理情報の書き込みを行いません。装置にカートリッジを入れたまま電源を切断するとこの処理が正しく行なわれないため、異常媒体が生成される場合があります。装置の電源を切断する場合は、必ずデータカートリッジを取り出してください。

第7章 サプライ品

本製品のサプライ品には以下のものがあります。データカートリッジ、クリーニングカートリッジは必ず当社指定のサプライ品を使用してください。

表 7.1 富士通コワーコ株式会社 取り扱い品

品名	商品番号	出荷単位	備考
Ultrium 1 データカートリッジ	0160210	5 巻	容量 100GB
Ultrium 1 クリーニングカートリッジ	0160290	1 巻	15 回使用可

第 8 章 仕 様

品名	外付け L T O 装置	
型名	PGSLT101	
質量	5.4kg	
外形寸法	幅 208mm×奥行 298mm×高さ 122mm	
記憶容量	100GB (非圧縮時、圧縮機能あり)	
最大データ転送速度	15MB/s (非圧縮時、媒体への書き込み速度)	
装置寿命	5 年または ヘッド使用時間 30,000 時間	
エラーレート	10 ⁻¹⁷ 以下	
インタフェース	Ultra2 Wide SCSI (LVD)	
環境条件	温度	10°C～35°C (動作時)
		-5°C～55°C (非動作時)
	温度勾配	10°C/H 以下 (動作時)
		20°C/H 以下 (非動作時)
湿度	20%～80%RH (結露なきこと)	
最大湿球温度	26°C	
入力電源	AC100V	
消費電力	最大 35W	

付録 トラブルシューティング

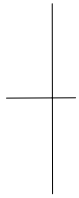
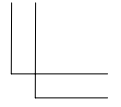
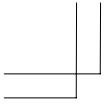
現象	処置
ドライブが電源投入しても「Ready」LED が消えたままである。	電源スイッチには緑色の LED が付いています。この LED が点灯していない場合には、電源ケーブルの接続を確認し、必要に応じて電源ケーブルを交換してください。 電源が入っているのに、すべての LED が消えている場合には、弊社担当保守員または営業員にご連絡ください。
ドライブが電源投入時のセルフテスト(自己診断テスト)に失敗した。「Drive Error」と「Tape Error」の LED が点滅している。	データカートリッジをアンロードします。電源を入れ直し、エラー状態が解消されたら、新しいデータカートリッジをロードします。 エラー状態が再現するときには、弊社担当保守員または営業員にご連絡ください。
「Use Cleaning Cartridge」LED が点滅する。	ドライブをクリーニングする必要があります。クリーニングカートリッジをロードしてクリーニングしてください。「第5章 クリーニングについて」をご参照ください。
クリーニングカートリッジをロードするとすぐにイジェクトされ、「Tape Error」LED が点滅する。	クリーニングカートリッジを使い切っています。新しいクリーニングカートリッジを使用してください。
「Drive Error」LED が点滅している。	ドライブの電源を入れ直してください。 エラー状態が再現するときには、弊社担当保守員または営業員にご連絡ください。
「Tape Error」LED が点滅している。	カートリッジをアンロードし、新しいカートリッジをロードしてください。「Tape Error」LED が消えた場合、カートリッジに問題があります。 エラー状態が再現するときには、弊社担当保守員または営業員にご連絡ください。
カートリッジがすぐにイジェクトされて「Tape Error」LED が点滅するか、またはアンロードすると「Drive Error」LED が点滅する。	カートリッジに内蔵されているメモリに欠陥がある可能性があります。カートリッジを書き込み禁止にするとデータを読み取ることができます。データを回復・退避したらカートリッジはご使用にならないでください。
SCSI 終端となっている本製品の「ACT TERM」LED が点灯していない。	アクティブターミネーションが無効となっており、SCSI バスが終端されていません。1 台接続の場合は、サーバ側からの SCSI ケーブルが SCSI IN コネクタに接続されているか確認してください。 2 台接続している場合は、最後のデバイスの「ACT TERM」が点灯していることを確認してください。 SCSI 終端となっている本製品の「ACT TERM」LED が点灯していない場合は、弊社担当保守員または営業員にご連絡ください。
「FAN/PWR FAULT」LED が点灯している。	本製品に異常があります。弊社担当保守員または営業員にご連絡ください。

PRIMERGY
外付け LTO 装置
(PGSLT101)
取扱説明書
P3FY-2210-01-00

発行日 2001年 12月
発行責任 富士通株式会社

本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の
権利の侵害については、当社はその責を負いません。
無断転載を禁じます。
落丁、乱丁本はお取り替えいたします。

⑦ 0112-1



FUJITSU

